

市民、国会囲み夜通し反対

強行に抗議のうねり

「あり得ない」「民主主義は死んだ」。
15日朝、「共謀罪」法が成立すると、国会を取り囲んで夜通し反対のシブシブコールを続けた市民から怒号が上がった。拡声器のマイクを握った若者は「本当に許せない。安倍政権を倒す以外に道はありません」と絶叫。抗議のうねりは夜も続いた。



監視社会許せない

参院で採決に向けた手続きが進む中、14日から集まっていた市民らは「監視社会を絶対許さな」と声を張り上げた。可決成立が伝えられると「ああ」とため息が漏れたが、すぐ「採決無効」と怒りの大合唱に。横浜市の酒井和彦さん(49)は「こんな方法で強行するのは」とあざむかれた様子だった。

東京都葛飾区の会社員片岡千蔵さん(44)は「残念でならない。デモも封じられる恐ろしい社会になるのでは」と懸念。墨田区の団体職員宮川敏一さん(68)は「悔しいが、黙ってはいられないように社会を変えられてしまう。今後もおかしいことはおかしいと言ってきた」と力を込めた。「これで終わりではない。政府がどう運用するかをきちんと見ていかなければ」。墨田区のと田雄一さん(65)はチェックを続ける姿勢を見せ、「共謀罪法成立に抗議して国会前に集まった人たち」15日夜

た。夜になると、反対する市民による集会在国会正門前で開かれ、若者がドラムの音に合わせて、「勝手に決めるな」「共・謀・罪・廃止」など大叫んだ。東京都大田区の大学3年生金子大陽さん(20)は国会前集会に初めて参加。「問題点がうやむやにされたまま成立してしまっ。警察の考え方次第で誰が監視されるかわからないと思うと不安だ」と話した。

「暴挙」県内でも怒りの声

「多数の暴挙」「独裁政治の始まり」。「共謀罪」法が成立した15日、福井県内でも反対を訴え続けた団体などが怒りの声を上げた。福井市のJR福井駅東口で座り込みを続けてきた真内野党と政治団体、市民団体などでつくる「ピースくいのぼ」この日も約2時間わたって活動した。約50人が抗議。「共謀罪反対」などと書いたプラカードを掲げ、参加者が

「乱暴なやり方」「新聞労連が声明」
新聞労連は15日、「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ改正組織犯罪処罰法の成立に際し、「参院法務委員会での審議を打ち切って本会議で直接採決する」「中間報告」を強行した。議会制民主主義を自己否定するような乱暴なやり方であり、政府与党に強く抗議する」との声明を発表した。

「代わる代わるマイクを握り、の始まり」。「共謀罪」法が成立した15日、福井県内でも反対を訴え続けた団体などが怒りの声を上げた。福井市のJR福井駅東口で座り込みを続けてきた真内野党と政治団体、市民団体などでつくる「ピースくいのぼ」この日も約2時間わたって活動した。約50人が抗議。「共謀罪反対」などと書いたプラカードを掲げ、参加者が

「乱暴なやり方」
新聞労連が声明
新聞労連は15日、「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ改正組織犯罪処罰法の成立に際し、「参院法務委員会での審議を打ち切って本会議で直接採決する」「中間報告」を強行した。議会制民主主義を自己否定するような乱暴なやり方であり、政府与党に強く抗議する」との声明を発表した。

「代わる代わるマイクを握り、の始まり」。「共謀罪」法が成立した15日、福井県内でも反対を訴え続けた団体などが怒りの声を上げた。福井市のJR福井駅東口で座り込みを続けてきた真内野党と政治団体、市民団体などでつくる「ピースくいのぼ」この日も約2時間わたって活動した。約50人が抗議。「共謀罪反対」などと書いたプラカードを掲げ、参加者が



島田広委員長(48)は「表現の自由、思想・信条の自由、集会・結社の自由に重大な脅威を及ぼす法案を、十分な審議を尽くさず採決した」と指摘。「議会制民主主義や、憲法が保障する基本的人権を踏みにじる行為だ」と批判した。

新設されたテロ等準備罪について「処罰範囲が広くて不明瞭。裁判所は捜査令状を出す際に、厳格な運用ができていないか厳しくチェックしなければならぬ。捜査機関が一般人を捜査、処罰することのないよう、引き続き監視が必要だ」と話した。捜査機関による電話やメールの「通信傍受」拡大や、犯罪拠点に傍受機器を設置する「全話傍受」の導入を懸念し、注視していく考えを示した。

ピースくいのぼの座り込みで、「共謀罪」法成立に抗議する参加者。15日、福井市のJR福井駅東口

(西協和宏、嶋本祥之)